

水は流れて

中田 芳子



毎年カレンダーが残り少なくなる
と、人は流れ去った一年の早さを思い、
それぞれちよつとした感慨に浸るのが
常ではないでしょうか。

一年三百六十五日、無事で平坦な日
常……というのは誰しもが願うところ
ですが、なかなかそう巧くはゆかない
ので、時には難題に出会い、それを何
とか切り抜けながら生きてゆく、それ
が人生というものなのでしょう。

私にとつて最近の受難の日はつい先
月のことでした。それは本来なら、と
ても楽しい一日だったはずなのです。

「逆さ歌」……という一風変わった特
技を持つ私は時々テレビやラジオにも
出させて頂いているのですが、それは

殆どが民放で、しかも関東一円でしか
見てもらえない場合が多いのです。

でも、今回お声をかけて下さったの
はNHK総合！全国放送です。

いつもの倍も気合いを入れて練習を
重ねました。なんせ、曲はあの「キャ
リーパミュパミュ」の持ち歌「つけま
つける」なのですから。

さていよいよ収録という前日、ス
タッフから電話が入りました。

「少し早いです、幕張本郷発五時
頃の電車に乗って下さい」

ええっ！一瞬のけぞってしまいました
た。

逆再生の器材やマイクまで自分で
持つて行く私です。

《コロコロ》をひいて……朝五時に？
実は私、宵つぱりで、普段寝るのは
午前二時。でも（少し早めに寝れば何
とかなる）そう思いました。

いつもより早くベッドに入り、あれ
これと明日の演奏に思いを巡らせてい
るうち、ふと指先に目が行きました。
（年寄りっぽい汚い手だなあ。明日
は鍵盤も大寫しされるかもしれない、
……せめて指輪だけでもつけて行こう）
そう思つて大事なものをしまつておく
小引出しを開けたのです。

無い!!
小さな箱が見当たらないのです。

私の悪いクセで、片付けは何でも「後
まわし……」、物を失くすのは日常茶飯。
（前に使つて放つておき、紙屑籠にで
も落つこととしたのでは？）

そうなるともう眠れません。ほかの
引き出しを開けては探すという愚を繰
り返すはめに。結局《うとうと》した
だけで、朝を迎えました。

（ま、いいか。電車は小一時間かかる

ことだしずつと寝て行けば）

ご飯も食わず、ペットボトルに紅茶
だけ入れて家を出ました。

まだ夜の明けきっていない十一月の
朝はさすがに寒く、ホームは乗客もま
ばらです。持参の温かい紅茶を一口飲
みました。

電車の座席もガラガラ。よし、これ
で眠つてゆける。もう一口お茶を飲む
つもりでボトルを取り出しました。や
けに軽いのです。

「あつ……空っぽ……？」
まさにガクゼンでした。

ホームで飲んだ後、すぐ電車が入つ



絵・山崎和代

て来たのであわてて栓を閉めたので
が、閉まりきつてなかつたようなの
です。やはり眠気でボウつとしていた
でしょう。コロコロは生地が固いので、
水は底に溜まっている！私は真青にな
りました。下の方に愛用のアイパッド
を入れていたからです。

けれど受難はそれからが始まりでし
た。ふと足許を見ると！そう、私のコ
ロコロから見事に流れ出ているチョコ
ロ水……。

その時気付いたのですが、水は電車
のスピードに合わせて一直線に後方へ、
蛇のように床を流れるのです。

（どうか乗客の皆さん、この水の流れ
に気がつきませんよう！）折つた直後
でした。

「もしもし、何か洩れていますよ！」
「すみません。フタが緩んでいたらし
くて……」

私はからつぱのボトルを手にかざし
ながら謝りました。ところが次の駅に
着くと乗客は入れ替わります。

その都度、「ちよつと！何か洩れて
ますよ！」の繰り返しです。

（でも、お蔭で……というべきか、アイパッ
ドは水浸しにならずに済んだのでし
た）

さんざんな幕開けでしたが、ダメも
ト気分がcaえつてよかつたのか、収録
はバツチリ。因分太一さん同士の「ク
イズ100人力！」という楽しい番組
でした。

ところで件の「指輪」ですが、数日後、
別の引出しからひよつこり出てきたの
です。

人生も水の流れのようなもの、落ち
着くべき所に何とか落ち着くものなの
でしょうね。

・プロフィール・
なかだよしこ 1931年台湾台北市
生まれ（戦後十五歳で帰国）。音楽講
師YAMAHARA・Jet（全日本工
レクティーン指導者協会）会員。特技の
「回文」や「サカサ歌」で、各局テレ
ビ出演。